

私立大学研究ブランディング事業

平成31年度の進捗状況

| | | | | | |
|--------------------|---|-------|------|------|-------|
| 学校法人番号 | 131114 | 学校法人名 | 田村学園 | | |
| 大学名 | 多摩大学 | | | | |
| 事業名 | 大都市郊外型高齢化へ立ち向かう実践的研究- アクティブ・シニア活用への経営情報学的手法の摘要- | | | | |
| 申請タイプ | タイプA | 支援期間 | 3年 | 収容定員 | 2630人 |
| 参画組織 | 研究ブランディングプロジェクト本部、研究活性化センター、学長室、産官学民連携センター、研究開発機構 | | | | |
| 事業概要 | <p>大都市郊外地域は、急速な高齢化に伴う活力低下が顕著である。だが、高度成長期を支えた高学歴の高齢者層が集積する特異な地域であるとともに、都市中心性と辺境性を併せ持ち社会環境面でも自然環境面でも数多くの有用な資源を持つ。本事業は、多摩ニュータウンをモデルに、活力ある高齢者層の社会参画を核に、情報技術と経営学的手法を組み合わせ地域の問題解決を実践し、大都市郊外型高齢化に立ち向かう研究をブランド化する。</p> | | | | |
| ①事業目的 | <p>本学が立地する多摩地域は、かつてはニュータウンに高度成長を牽引した団塊世代が集積し都心のベッドタウンの機能を果たしていたが、居住者が急速に高齢化が進み地域の活力低下が大きな課題となっている。そこでは、「若者は少ないもの高齢者層の厚い地域コミュニティの中で第一次産業に触れ生産活動への携わりを意識しつつ老いを感じていく」という田舎の高齢化とは異質の、大都市郊外型の高齢化が生まれている。また、医療技術が進歩し身体的健康が保たれる一方で、精神的・社会的な心の健康の問題がクローズアップされている。</p> <p>一方でこの地域は、過去に高度成長を牽引して相応の社会的地位を築き、退職後も活力を持ち生活する高学歴の高齢者（アクティブ・シニア）が集積する特異な地域である。また高齢世代や子育て世代、若者世代が一定の厚みを持ち存在し、教育・経済・文化水準も高い。そして、大都市圏としての「中心性」と都心からの「辺境性」を併せ持つことが創造的な風土を育ててきている。緑豊かな自然をはじめとする観光資源や近隣購買力が存在し、圏央道開通や将来のリニア中央新幹線により総合交通体系も劇的に変化を遂げつつある。</p> <p>そこで、大学というアカデミズムが中心となり地域企業・自治体・地域住民と向き合い、産官民学をつなげながら課題解決型のアプローチで都市郊外型高齢化の諸問題に立ち向かうことが、地域の名を冠する社会科学系の大学としての存在意義を果たすことになる。これらを踏まえ、本学の資源である経営実学・情報技術の応用・観光ホスピタリティの知見と研究力を多面的に活用し、心の健康を保ち、暮らしが豊かで人々が幸福で活力がある地域の実現を導くことを本事業の目的とする。</p> | | | | |
| ②平成31年度の実施目標及び実施計画 | <p>[実施目標]</p> <p>高齢者層と学生との協働活動を通じた世代継承を重点項目として実施するとともに、課題解決と事業創造の実践研究を経済的側面から促進する。ブランディング戦略として、アクティブ・シニアと学生の協働による世代継承に本学が積極的に取り組んでいることの認知を浸透させること。</p> <p>本学に足を運ぶなど積極的に行動するアクティブ・シニアだけでなく、行動範囲が限定的なマイルド・シニアの巻き込みを図る。</p> <p>[実施計画]</p> <p>マイルド・シニア層に対して本学が直接的に働きかけることに加え、アクティブ・シニアがマイルド・シニアを巻き込み、本学をプラットフォームとする社会参画が進むようにする。このために実施計画として、マイルド・シニア層が集まる公共図書館や病院、地域の町内会等との共同イベントを開催する。各種イベントや公開講座、産官民学連携のプロジェクトは継続して実施し、ここに対するマイルド・シニアの参画も促す。</p> | | | | |
| ③平成31年度の事業成果 | <p>①アクティブ・シニアが参画するイベントや公開講座の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10年以上の歴史を持つ多摩キャンパスのリレー講座は、春・秋ともに350人以上の一般受講者が受講、各期リポート率も概ね8割と高い評価を得ており、着実に地域に根差した講座となっている。 ・平成31(2019)年度はライブ・ビューイング配信を全キャンパス(湘南、品川、九段下サテライト)で実施し、広域多摩地域への貢献を拡大した。平成31(2019)年度一般受講者数はのべ14,052人(うち、多摩9,168人、湘南1,236人、品川132人、九段下3,516人)、12年間に渡る288回の講演の累積人数は一般受講者でのべ106,372人、学生を含めた受講者総数ではのべ157,448人となった。 ・「T-Studio」にて、平成26(2014)年度秋学期より公開講座を開講している。平成31(2019)年度は24回の講座を開講し、のべ1,217人が出席した。 <p>②世代継承型研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「現代世界解析講座(リレー講座)」受講生の地域高齢者と学生が交流するサロンを、教室を喫茶スペースと改装し運営、各回40～50名の地域高齢者/学生の参画を得た。 ・都市郊外地域に暮らす高齢者に対して、第一次産業に触れる機会を提供するとともに知的刺激をもたらすことを狙いとして、山梨県への「ジェロントロジー企画社会参画ツアー」2回(計54人参加)「済州島フォーラム参加ツアー」1回(6人参加)を催行した。 <p>③課題解決型研究および事業創造型研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大いなる多摩学会において「生と死のジェロントロジー(高齢社会工学)」をテーマとして定期総会を開催した。合わせて①「健康まちづくり産業」②「ビッグデータ」③「湘南インバウンド」④「創業支援プラットフォーム」の4つのプロジェクト報告が行われた。 ・企業、大学、自治体等で構成されるジェロントロジー研究協議会を発足し、多摩大学も参画した。主なミッションは社会的事業や人材育成プログラムの企画・調査、高齢者及び高齢者予備世代(シニア)の組織化等である。研究分野として「宗教・健康」、「美容」、「金融」、「観光」、「農業」の6分野において、研究クラスター別分科会を設置し、それぞれの研究を推進している。主な研究成果として、「高齢者の実態パネル調査」し、国道16号線沿い居住の高齢者の生きがいや、やりがい有無、学びや社会参画への意向等の特性を把握した。この調査で得た知見を人材育成プログラム開発に活用した。 | | | | |

| | |
|---------------------------------|--|
| <p>④平成31年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p> | <p>人材育成プログラムとは、年を取ることの意義、人間関係、「縁」について、体・頭の加齢現象などのジェロントロジーの基礎や、「医療・健康」、「美容」、「金融」、「観光」、「農業」に関するオリエンテーションを20時間で学ぶ「共通プログラム」と、上記5分野の専門課程を40時間で学ぶ「分野別人材育成プログラム」に大別される。計60時間学び、修了条件を満たした受講者に対しては、専門人材として「認定」することを想定している。また、60時間受講することで、学校教育法105条より、大学等が「履修証明書」を発行できることになり、ジョブ・カードと連動させることで就業機会、すなわち社会参画の機会が増加することにつながる。</p> <p>開発中のプログラムの品質向上に資するフィードバックの収集を目的に、2019年8月に第1回プレ研修を開講した(57歳～78歳男女延べ20名参加)。プレ研修では、年を取ることの意義、人間関係、「縁」について、体・頭の加齢現象などのジェロントロジーの基礎を学んだあと、美容、健康、観光、金融分野の専門課程へのオリエンテーションを含めた、共通プログラムの内容を計18時間で実施した。また、2019年11月には、「高度観光人材育成プログラム」として、本学の留学生と70代シニア受講者による体験プログラムを実施した(57歳～78歳男女延べ22名参加)。外国人観光客に対し、オリジナリティのある体験・ガイディングサービスを提供できる人材の育成を目指している。</p> <p>(自己点検・評価)</p> <p>・高齢者の参画プラットフォームとして、新たに人材育成プログラムの設計・試行を実施したことは</p> <p>参加者個人が地域・社会等を取り巻く様々な課題を再認識し、自分が果たせる役割を考え、行動やコミュニティを創造するきっかけとなる意義のある企画であったと評価している。また、そこに同じ興味を持つマイルド・シニアが参画することで新たなネットワークが形成された。</p> <p>・基盤的公開講座・シンポジウムにおいては、公開講座「現代世界解析講座」の受講者リポート率が非常に高く、多摩地域の高齢者に有意義な企画として着実に根付いていると評価する。さらに、湘南キャンパス、九段下サテライトとリアルタイム及びオンデマンド配信箇所を増加させ相応規模の受講生を集めていることは、大都市郊外型高齢化に立ち向かうという本学のブランディングに大きく貢献しているものと高く評価する。また、その他の公開講座やシンポジウムの実施などにおいても、活動が拡大・発展していることを評価している。</p> <p>・世代継承型研究においては、第一次産業体験ツアーやライフヒストリー・インタビューを継続するとともに、新たに具体的に地域高齢者と学生の世代継承の場を設けて実践していることを評価している。</p> <p>・課題解決型研究においては、高齢者の課題把握に向けたパネル調査を継続的に実施したことや、具体的な課題解決活動として高齢者の脳活性化等の研究に取り組んでいることを評価する。</p> <p>・事業創造型研究においては、高齢化社会工学(ジェロントロジー)へと視野を広げ、地域密着型のセミナー実施に加え、複数外部機関と事業化を視野に入れた共同研究へと発展させたことを評価している。</p> <p>(外部評価)</p> <p><事業計画・事業活動に対する評価></p> <p>①2019年度の事業計画は、2018年度の事業成果をより深化させると同時に、新たな取り組みによって本事業をより進化させるものと判断できる。特に、「ジェロントロジー研究協議会」の発足は、アクティブ・シニアが受動的な参加に留まることなく、その名の通り能動的に参加する機会を作るという点で意義深い。</p> <p>②2019年度の事業活動は当初の概ね計画通りに進められたものと思料する。リレー講座出席者のリポート率の高さは本事業が地域に定着しつつあることをうかがわせるものである。そして、「ジェロントロジー研究協議会」が発足したことで、学術面から本事業を支える体制が整ったことは、本事業の基盤を強固なものにする取り組みであったと判断できる。</p> <p>③公開講座をライブ・ビューイングも加えて行い、各地から14,052名の参加者を呼び込んだことは多摩大の知名度と教育のクオリティを認知する機会となった。さらに世代継承型研究として、学生や地域との交流事業も行っている。ジェロントロジー協議会、6つの分科会、さらに人材育成プログラムとして、履修証明と就業機会の確保へと繋げた。わずかな期間で学長の問題意識からこれらの制度化へと繋げたことは、驚異的な進捗といえよう。</p> <p>④各事業活動において、多くの関心を集め、参画を得ている。実践型のプログラムが多く、コミュニティ化の促進や、アクティブ・シニア自身の社会参画の機会提供が実現できている。</p> <p><本事業への要望や改善について></p> <p>①本事業のコンテンツがますます充実し、リソースとしての本事業に関わる人材や知の活用可能性が高まるのにもない、今後はブランディングに向けて、事業の内容を広くわかりやすく伝えるための取り組みが一層必要となるであろう。その一つとして、寺島氏の著書発刊に見られるように、ジェロントロジーというキーワードを象徴的に活用することによって、本事業を要約し、かつ、より多くの人の記憶の中で本事業と多摩大学と結びつけるようなコミュニケーション活動を実践していくことが望まれる。</p> <p>②素晴らしい成果を遂げた実践的研究であり、私立大学ブランディング事業の範となる事業であろう。これに受講生(学生・社会人)からの評価も盛り込まれると、さらに制度設計の改良に繋がるであろう。</p> |
| <p>⑤平成31年度の補助金の使用状況</p> | <p>平成31年度の事業経費の主なものは、公開講座および第一次産業体験ツアーの実施に関わる運営費、世代継承を狙いとする世代間交流サロンの運営費、人材教育プログラムに関する共同研究費、高齢者実態調査費、公開講座のライブビューイング配信に関わる設備費、ブランディング告知に関わる広告費、ホームページの作成費、消耗品費、広報費、委託費、旅費交通費、等である。</p> |